

つり環境ビジョン放流事業

東京湾口など各所に20万尾

3年目の調査型マダイ放流を実施

(一社)日本釣用品工業会(鳥野登三会長)と(公財)日本釣振興会(高宮俊諦会長)では、「つり環境ビジョン」として今年度も水中清掃、釣場開放など優先3事業を展開しているが、そのうち調査型の稚魚放流として8月8日、神奈川県

の東京湾口など各所に約20万尾のマダイ稚魚を放流した。その放流地点は金沢沖、久里浜沖、松輪沖の3カ所。この事業は今年度で3年目となる。

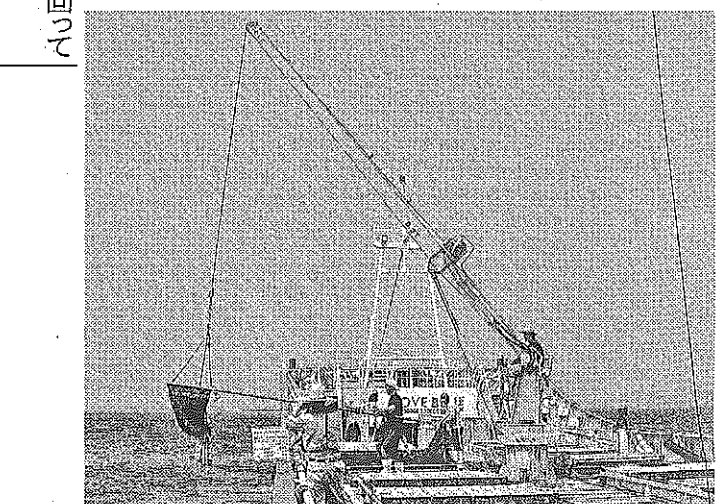
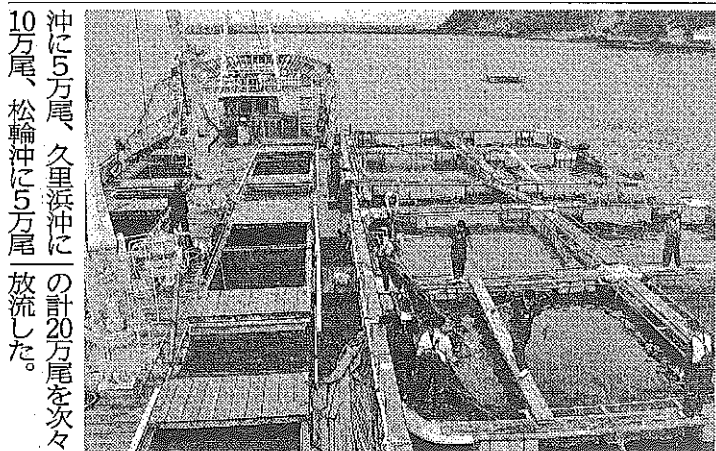
事業委託しており、今回も種田の中間育成、測定作業から放流に至るまで事業を推進している。

このマダイ放流は例年と同じく静岡県温水利用研究センターからマダイの受精卵を神奈川県栽培漁業協会に輸送、孵化して飼育、その後、小網代

湾の海上生簀で育成していた種苗は、放流前7月24日に実施した測定では体長が平均66・73ミ、体重が平均6・03gに成長していた。

そして、放流の当日は夜明け前から作業を開始して、海上生簀から活魚

神奈川県栽培漁業協会に
市城ケ島にある(公財)
放流も従来と同様、三浦
漁業協会に輸送、孵化し
て飼育、その後、小網代



沖に5万尾、久里浜沖に10万尾、松輪沖に5万尾放流した。

小網代湾の海上生簀からマダイ稚魚を活魚運搬船に積み、クレーンで東京湾の各所に次々放流